

同志社法学第十四卷総目次

自第七号  
至第七号

同志社法学第十四卷 執筆者紹介 (ABC順)

金丸輝雄	畑肇	嶋田敬介	大隅逸郎	西尾昭	君村昌	谷田貝三郎	山本浩三	八木鉄男	内田智雄	田畑忍	島本英夫	岡本善八	加藤正男	今井仙一	井ヶ田良治	秋山哲治
同志社大学助手	同志社大学助手	同志社大学講師	同志社大学助教	同志社大学助教	同志社大学助教	同志社大学教授	同志社大学教授	同志社大学教授	同志社大学教授	同志社大学教授	同志社大学教授	同志社大学教授	同志社大学教授	同志社大学教授	同志社大学教授	同志社大学教授

上田勝美	太田光子	松下泰雄	国府剛	太田雅夫	中瀬寿一	八田良太郎	大谷実	芳野勝	杉江栄一	岡田良夫	海原裕昭	高橋信司	熊谷開作	山中俊夫	山西田毅	宮井忠夫
同志社大学法学修士	同志社大学法学修士	同志社大学法学修士	同志社大学法学修士	同志社大学人文科学研究会	同志社大学法学会	同志社大学講師(文学部)	同志社大学嘱託講師	高知短期大学助教	三重短期大学助教	京都大学助教	高知短期大学助教	高知短期大学教授	大阪大学教授	同志社大学助手	同志社大学助手	同志社大学助手

論 說

憲法学に於ける論理主義的法実証主義	田 畑	忍	七	一
——小林教授の批判に対する反論として——				
合名会社清算持分の相続	岡 本	善	八	七
京都学派の法思想について	田 畑	忍	七	二
——その源流としての佐々木博士と恒藤博士——				
天皇機関説確立過程における美濃部理論の特質	中 瀬	寿	一	七
——明治三〇年代における自由主義と社会主義の協力の問題をめぐって——				
国際私法における持分相続および外国人の会社	岡 本	善	八	七
人格責任論の準備的研究	大 谷	実	七	三
——Erik Wolf の見解を中心として——				
フリードリヒ二世の『反マキャヴェリ』について	今 井	仙	一	七
小規模株式会社と closed corporation 序説	岡 本	善	八	七
——特に小数株主について——				
西ドイツにおける非嫡出子の法的地位	官 井	忠	夫	七
——ヒューブナーの見解を中心として——				
荻生徂徠の著述について	内 田	智	雄	七
——「法律家」としての徂徠研究の序説——				

ヒュームにおける自愛の問題	今井仙一	七五	二九
西ドイツにおける非嫡出子の法的地位(二・完)	宮井忠夫	七五	六一
——ヒューブナーの見解を中心として——			
封建的村落共同体と村掟(六)	井ヶ田良治	七五	八七
——丹波国保津村五苗集団の村落支配——			
明治的裁判官の法思想	田畑忍	七六	一
——児島惟謙の場合——			
荻生徂徠の著述について(四)	内田智雄	七六	一八
——「法律家」としての徂徠研究の序説——			
利己と利他との間	今井仙一	七七	一
憲法第一九条の「良心」と第七六条第三項の「良心」について	田畑忍	七七	二七
人格責任論に関する二つの見解	大谷実	七七	四六
中間者としての人間について	今井仙一	七八	一
社会主義的政治範疇としての「民主主義と自由」について	大隅逸郎	七八	三一
——中国社会主義政治の一考察——			
天皇制意識の分析	太田雅夫	七八	六五
天皇観念の変遷	高橋信司	七八	八五
右翼社会民主主義者とラスキの思想的変遷の問題	岡田良夫	七八	一九五

「明治デモクラシー」のナシヨナリズムへの転換……………中瀬寿一……………七八…一七七

——「天皇機関説」論者上杉慎吉・北一輝の「転向」思想——

刑法解釈における相当性の概念……………秋山哲治……………七八…二一七

公の営造物と賠償責任……………西尾昭……………七八…二四一

単純な届出制について……………芳野勝……………七八…二六一

フランス五八年憲法における条約法形成手続……………杉江栄一……………七八…二八三

田畑憲法学の特質……………上田勝美……………七八…三一

ノースカロライナの議決権信託制度……………島本英夫……………七八…三四一

商号複数原則について……………岡本善八……………七八…三六三

「法令令説」における主権者の問題……………八木鉄男……………七八…三九一

徴兵令における「家」と国家……………熊谷開作……………七八…四二一

社会学的法学の思想性……………海原裕昭……………七八…四四五

小規模株式会社設立に関する一考察……………岡本善八……………七九…一

荻生徂徠の著述について(註)……………内田智雄……………七九…二六

——「法律家」としての徂徠研究の序説——

判例研究

未確定判決の財産分与請求権の保全	谷田具三郎	七一	四一
迷信を動機とする通名への改名	谷田具三郎	七二	五六
商号変更に関する株主総会の決議前に新商号で 振出された約束手形と会社の責任	畑肇	七二	七〇
調停調書の更正の申立を却下した決定に対して 抗告することの適否	嶋田敬介	七三	五〇
被害者の認知前の父と民法第七十一条	宮井忠夫	七三	六〇
「法廷等の秩序維持に関する法律」違反事件について	山中俊夫	七三	七一
後見人の後見監督人に対する解任請求権	谷田具三郎	七四	七九
手形の呈示と時効の中断	畑肇	七四	八五
言論の自由と名誉毀損罪	大谷実	七四	九五
親権者指定審判事件において監護者をも 指定することの能否・ほか	宮井忠夫	七五	一〇九
家事審判規則第四条第一項但書の法意	嶋田敬介	七六	四六
保証のための戻裏書と償還請求	畑肇	七六	五三
瑕疵ある代諾による養子縁組が追認されたものとして	谷田具三郎	七七	七二
尊属殺の成立する一事例	国府剛	七七	七二
未成年の子に対する扶養料の支払いを命ずる 審判とその期間の明示	宮井忠夫	七九	六一

資料

訳注 魏書刑罰志 (四) (未定稿)	……………	内田智雄	……………	七一	……………	五四
刑事確定判決と既判力	……………	山中俊夫	……………	七一	……………	六七
未必の故意について	……………	大谷実	……………	七一	……………	八五
ミルキヌ・ゲツェヴィチ「国民公会の下における 議院内閣制」訳(一)	……………	山本浩三	……………	七一	……………	九六
海波著「社会主義における権威の問題」(訳) ——エンゲルスの「権威論」を読んで——	……………	大隅逸郎	……………	七一	……………	一〇三
カール・レンナー著「私法の諸制度とその社会的機能」(二)	……………	加藤正男	……………	七一	……………	一一一
訳注 魏書刑罰志 (四) (未定稿)	……………	内田智雄	……………	七一	……………	八一
人的会社に関する改正法文について	……………	岡本善八	……………	七一	……………	一〇六
レーヴェンシュタイン教授への書翰	……………	田畑忍	……………	七一	……………	一一九
呉江著「発展過程における部分的な質的变化について」	……………	大隅逸郎	……………	七一	……………	一二三
ミルキヌ・ゲツェヴィチ「国民公会の下における 議院内閣制」訳(二)	……………	山本浩三	……………	七一	……………	一三八
カール・レンナー著「私法の諸制度とその社会的機能」(一)	……………	加藤正男	……………	七一	……………	一四六

訳注 魏書刑罰志(丙)(未定稿)……………	内田智雄……………七三……………七九
国際私法上の能力についての一試見(一)……………	岡本善八……………七三……………九二
舒煒光「基本的な矛盾と矛盾の基本的な側面について」(一)……………	大隅逸郎……………七三……………一〇三
ミルキヌ・ゲツェヴィチ「国民公会の下における議院内閣制」訳(三)完……………	山本浩三……………七三……………一一九
カール・レンナー著「私法の諸制度とその社会的機能」(四)……………	加藤正肇……………七三……………一二六
法規についての一試論……………	田畑忍……………七四……………一〇四
——いわゆる訓示規定にかんする磯崎教授の見解について——	
国際私法上の能力についての一試論(二)……………	岡本善八……………七四……………一〇八
「Double Jeopardy」とその諸問題(一)……………	山中俊夫……………七四……………一二一
カレ・ド・マルベール「議会制と人民投票の結合の問題にかんする理論的考察」訳(一)……………	山本浩三……………七四……………一三四
舒煒光「基本的な矛盾と矛盾の基本的な側面について」(二)完……………	大隅逸郎……………七四……………一四一
カール・レンナー著「私法の諸制度とその社会的機能」(五)……………	加藤正肇……………七四……………一五八
訳注 魏書刑罰志(乙)(未定稿)(完)……………	内田智雄……………七五……………一二〇
ヨーロッパ統一株式会社法成立に関する所論(一)……………	岡本善八……………七五……………一三三
李光燦・郭雲鵬共著「孫中山の哲学思想」訳(上)……………	大隅逸郎……………七五……………一四四



カール・レンナー著「私法の諸制度とその社会的機能」(A)	加藤正男	七五	一六五
訳注 隋書刑法志(一)(未定稿)	内田智雄	七六	六〇
ヨーロッパ統一株式会社法成立に関する所論(一)	岡本善八	七六	七二
西ドイツ親族法の改正(上)	宮井忠夫	七六	八二
「Double Jeopardy」とその諸問題(一)	山中俊夫	七六	九九
カレ・ド・マルベール「議会制と人民投票の結合の問題にかんする理論的考察」訳(一)・完	山本浩三	七六	一〇八
プロシヤ王国の憲法(訳)(一)	山本浩三	七六	一一六
李光燦・郭雲鵬共著「孫中山の哲学思想」訳(下)・完	大隅逸郎	七六	一二七
カール・レンナー著「私法の諸制度とその社会的機能」(B)	加藤正男	七六	一四三
西ドイツ親族法の改正(下)	宮井忠夫	七七	八三
聞師潤著「勢力を集中し、一つ一つ解決せよ」	大隅逸郎	七七	九九
ヘンリー・L・メイスン著「トインビーの世界政治観」(一)	八田良太	七七	一一六
シヤルル・セニヨボス「権力の分立」(訳)(一)	山本浩三	七七	一二九
カール・レンナー著「私法の諸制度とその社会的機能」(A)	加藤正男	七七	一三七
ヨーロッパ統一株式会社法成立に関する所論(二)・完	岡本善八	七九	七二

アメリカ公務員制度の課題	君村昌	七九	八六
各国養子法の改正	国府剛	七九	九五
シャルル・セニヨボス「権力の分立」(訳)(完)	山本浩三	七九	一二九
呉傳啓著「政治と経済の弁証法」(上)	大隅逸郎	七九	一四〇
——「資本論」における弁証法の問題に関する学習ノート——			
ヘンリー・L・メイスン著「トインビーの世界政治観」(译)	八田良太郎	七九	一六〇
金丸輝雄			
カール・レンナー著「私法の諸制度とその社会的機能」(译)	加藤正男	七九	一七三
畑正			

書 評

嬉野満洲雄『現代ヨーロッパ』	田畑忍	七一	一二九
『思想の科学』天皇制特集号を読んで	太田雅夫	七一	一三二
八木鉄男著『分析法学の潮流』	海原裕昭	七二	一六二
モーリス・デュベルジェ「第六共和政と大統領制」	山本浩三	七三	一四四
「中立の法的側面」	松下泰雄	七四	一七二
——民主法律家国際協会第七回会議第三委員会議事録——			
自由追求の憲法学	田畑忍	七六	一五七
——小林孝輔著『日本の憲法政治』について——			

田畑忍著「憲法重要問題の研究」(新刊紹介)	……………	西尾	昭……………	七六…一六一
クーデンホーフ・カレルギー著・鹿島守之助訳	……………	金丸	輝雄……………	七六…一六三
「パン・ヨーロッパ」	……………	西太		
田畑 忍教授略歴および著作目録	……………	田田	雅毅	編夫……………
	……………			七八号…卷末